次世代シークエンサ実習II



本講義にあたって

- ・ 代表的な解析の流れを紹介します
 - 論文でよく使用されているツールを使用します
- ・ コマンドを沢山実行します
 - スペルミスが心配な方は、コマンド例がありますのでコピーして実行してください
 - /home/admin1409/amelieff/ngs/Reseq_command.txt
- ・ TRY! マークのコマンドは実行してください。
 - 実行が遅れてもあせらずに、応用や課題の間に追い付いてくだ さい

本講義の内容

Reseq解析

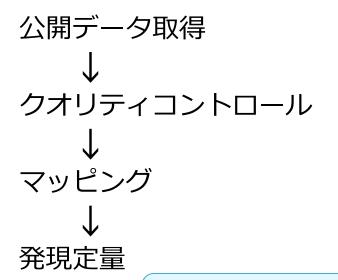
公開データ取得

→ クオリティコントロール
→ マッピング

変異検出

SNVとIndel検出 を行います。

• RNA-seq解析



FPKMを算出します。

検出可能な変異 Reseq解析:

・ ショートリードのシーケンスでも様々な変異を検出可能

SNV

InDel

Inversion

Duplication Translocation

CNV

検出アルゴリズムとソフトウェア

Paired-end mapping

: BreakDancer, VariationHunter

Split-read mapping

Pindel

Others, Complex

CREST, DELLY

充分に精度が高いとは言えません。

Reseq解析:パイプライン

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出



- a. Illumina CASAVA filter [Y] を除去
- b. クオリティ20未満が80%以上のリードを除去
- c. クオリティ20未満の末端をトリム
- d. 未知の塩基(N)が多いリード除去
- e. 配列長が短いリード除去
- f. 片側のみのリードを除外
- g.クオリティコントロール前後にFastQCによる 集計および可視化



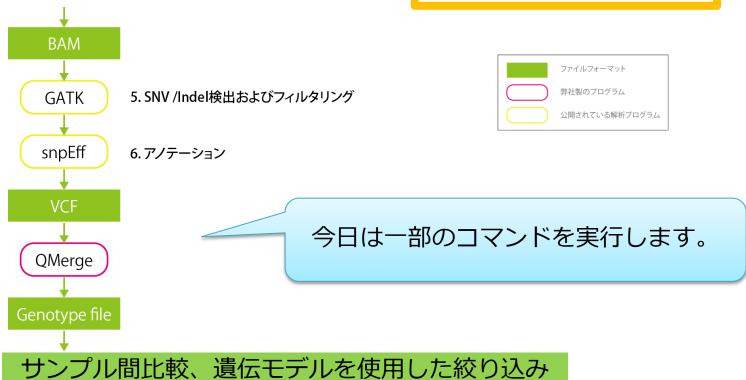
4. リアラインメントおよびベースクオリティのリキャリブレーション

解析パイプラインとは

「あるソフトの出力結果が、次のソフトの入力ファイルとなる」連続した解析処理の流れ。

Reseq解析:パイプライン

データ取得 → クオリティコントロール -→ マッピング→変異検出



サンプル間比較、遺伝モデルを使用した絞り込み Genotype imputation など様々。

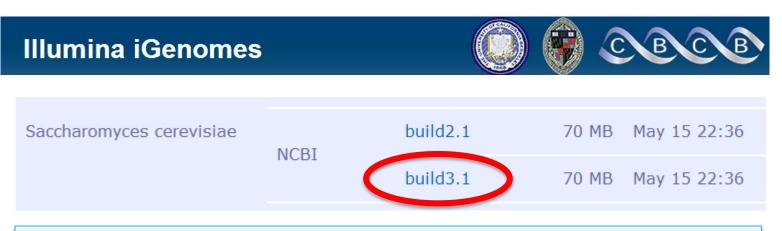
データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンス取得



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンス取得



リファレンスのfastaのみではなく、 マッピングソフトのインデックスファイルや遺伝子情報ファイルも 一緒に圧縮されて公開しています。

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンス取得(実行済み)

ダウンロードして、解凍します。

```
$ wget ftp://igenome:G3nom3s4u@ussd-
ftp.illumina.com/Saccharomyces_cerevisiae/NCBI
/build3.1/Saccharomyces_cerevisiae_NCBI_build3
.1.tar.gz
$ tar zxvf
Saccharomyces_cerevisiae_NCBI_build3.1.tar.gz
```

※ファイル容量が大きいため、使用しないデータを一部削除しています



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンスを確認

```
$ cd
/home/admin1409/genome/Saccharomyces_cerevis
iae/NCBI/build3.1/Sequence
$ 11
```

```
drwxrwxr-x 2 admin1409 admin1409 4096 Jun 4 01:53 AbundantSequences
drwxrwxr-x 2 admin1409 admin1409 4096 Apr 11 2012 Bowtie2Index
drwxrwxr-x 4 admin1409 admin1409 4096 Mar 16 2012 BWAIndex
drwxrwxr-x 2 admin1409 admin1409 4096 Mar 17 2012 Chromosomes
drwxrwxr-x 2 admin1409 admin1409 4096 May 9 2013 WholeGenomeFasta
```



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンスを確認

\$ ll WholeGenomeFasta

```
-rwxrwxr-x 1 admin1409 admin1409 2310 Mar 16 2012 genome.dict
-rwxrwxr-x 1 admin1409 admin1409 12330859 Mar 16 2012 genome.fa
-rwxrwxr-x 1 admin1409 admin1409 412 Mar 16 2012 genome.fa.fai
-rwxrwxr-x 1 admin1409 admin1409 2318 May 9 2013 GenomeSize.xml
```



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンスを確認

\$ less WholeGenomeFasta/genome.fa

ヘッダには、コンティグ名が記載されます。

「q」で閲覧を終了します。



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンスを確認

\$ less WholeGenomeFasta/genome.fa.fai

I	230218	3	70	71
II	813184	233514	70	71
III	316620	1058320	70	71

インデックスファイルを開きます。 SamToolsで作成できます。

:

1列目: コンティグ名(fastaファイルのヘッダ)

2列目: **コンティグの長さ**

3列目: ファイルの先頭から見た、染色体の第一塩基目の位置

4列名: fastaの1行の文字数

5列目: 各行のバイト数

応用)ヒトリファレンスの話

GRCh Build37 + デコイ配列 Version 5

ヒトWhole Genome Sequencing Cloneを「ヒトゲノム+ヒトへルペスウイルスHHV-4」にマッピングして、よくマップできなかったものを集めたもの。

サイズ: 合計35.4Mb、N50=22.9kb

特徴: 50%はサテライト配列またはシンプルリピート、

20%はレトロトランスポゾン

※現在は、2013/12/24にメジャーアップしたGRCh38が公開されています。

応用)ヒトリファレンスの話

GRCh Build37 + デコイ配列 Version 5



Reseq解析は、リファレンスに対して変異検出するので、 リファレンス自体がどの程度確かなのかが非常に大切



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• 酵母のゲノムのリファレンスを確認

\$ 11 BWAIndex/version0.6.0

BWA バージョン0.6の インデックスファイルを開きます。



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• リファレンスのインデックスを作成

BWA バージョン0.7のインデックスファイルを作成します。 BWAの使い方を確認します。

※既にbwa0.7にPATHが通っている場合はbwaだけで実行できます。

\$ /home/admin1409/amelieff/ngs/bwa-0.7.10/bwa index

Usage: bwa index [-a bwtsw|is] [-c] <in.fasta>

- mkdir BWAIndex/version0.7.10
- \$ cd BWAIndex/version0.7.10



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• リファレンスのインデックスを作成

シンボリックリンクを作成します。

\$ ln -s **実体のファイル**

```
$ ln -s ../../WholeGenomeFasta/genome.fa
$ 11
```

lrwxrwxrwx...genome.fa -> ../../WholeGenomeFasta/genome.fa



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

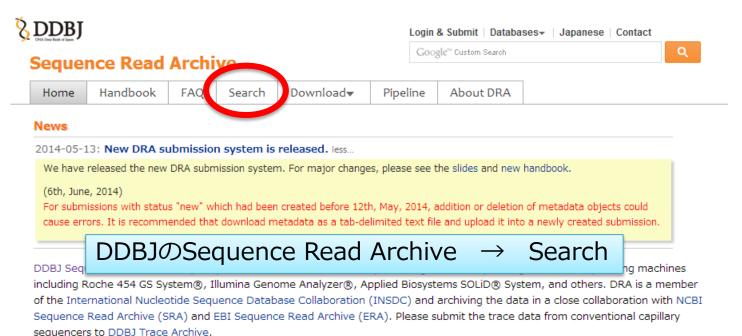
• リファレンスのインデックスを作成

インデックスを作成します。

```
$ /home/admin1409/amelieff/ngs/bwa-0.7.10/bwa index
genome.fa
$ 11
```

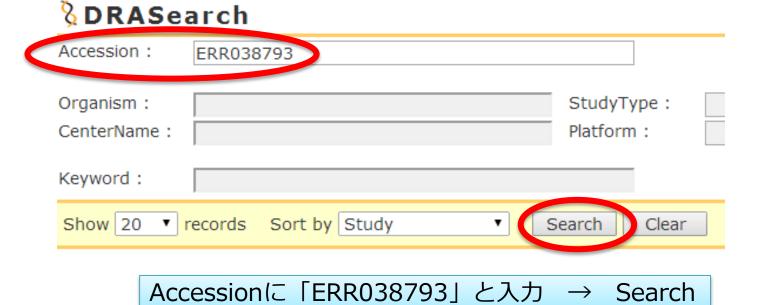
データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

・ シーケンスデータ取得 http://trace.ddbj.nig.ac.jp/dra/index.html



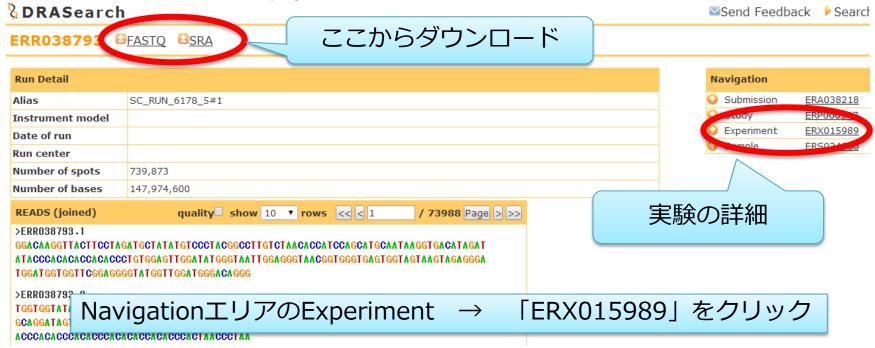
データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• シーケンスデータ取得



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

シーケンスデータ取得



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• シーケンスデータ取得

Experiment Detail			
Title			
Design Description	Illumina sequencing of library 2414804, ERP000547. This is part of an Illumina m tagged with the sequence ATCACGTT.		
Organism	Saccharomyces cerevisiae		
Library Description			
Name	2414804		
Strategy	wgs Whole	Genome Seque	
Source	GENOMIC		
Selection	RANDOM		
Layout	PAIRED		

他にも、シーケンサの プラットフォームや リード長などの情報も 記載されています。

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

シーケンスデータ取得(実行済み)

ダウンロードします。

```
$ wget
ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA038/ER
A038218/ERX015989/ERR038793_1.fastq.bz2

$ wget
ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA038/ER
A038218/ERX015989/ERR038793_2.fastq.bz2
```

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

シーケンスデータ取得(実行済み)

解凍して、先頭1000リードを抽出します。

```
$ bunzip2 ERR038793_1.fastq.bz2
$ bunzip2 ERR038793_2.fastq.bz2

$ head -4000 ERR038793_1.fastq > 1K_ERR038793_1.fastq
$ head -4000 ERR038793_2.fastq > 1K_ERR038793_2.fastq
```



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

• シーケンスデータを確認

```
$ cd /home/admin1409/amelieff/ngs
$ 11
```

```
-rw-rw-r-- 1 admin1409 admin1409 315892 Jul 16 18:45 1K_ERR038793_1.fastq
-rw-rw-r-- 1 admin1409 admin1409 315892 Jul 16 18:45 1K_ERR038793_2.fastq
-rw-rw-r-- 1 admin1409 admin1409 346770 Dec 3 2013 1K_SRR518891_1.fastq
```

行数を数えます。 1リードは4行で表記されます。

```
$ wc -1 1K_ERR038793_1.fastq
4000 1K ERR038793 1.fastq
```

Copyright © Amelieff Corporation All Rights Reserved.



クオリティコン Reseq解析:

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

シーケンスデータのクオリティを確認

インストールされているFastQCの、バージョンと使い方を確認します。

```
$ fastqc -version
```

FastQC v0.10.1

\$ fastqc -help

Fastqのみではなく、 bamとsamも入力可能

fastqc [-o output dir] [--(no)extract] [-f fastq|bam|sam] [-c contaminant file] seqfile1 .. seqfileN

複数のファイルも指定可能



Reseq解析: クオリティコントロール

```
データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出
```

シーケンスデータのクオリティを確認

FastQCを実行します。

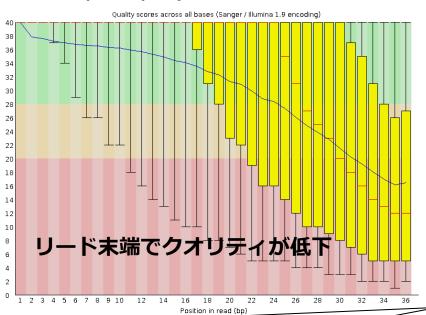
```
$ mkdir reseq
$ fastqc -o reseq -f fastq 1K_ERR038793_1.fastq
1K_ERR038793_2.fastq
```

fastqc_report.htmlを、ウェブブラウザで開きます。

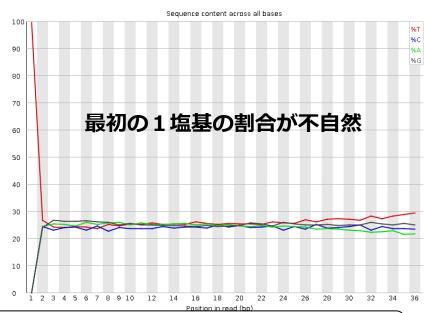
```
$ firefox reseq/1K_ERR038793_1_fastqc/fastqc_report.html
$ firefox reseq/1K_ERR038793_2_fastqc/fastqc_report.html
```

応用)とあるシーケンスデータの実例





Per base sequence content



マッピング率が低下や、変異の偽陽性が増加するなどの問題を引き起こす。

シーケンス技術が向上しクオリティの高いデータを目にする機会が 増えましたが、試料・シーケンス・トリミングなどに、 問題がないか確認することをおすすめします。



Reseq解析: クオリティコントロール

```
データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出
```

• クオリティ30以上の塩基が90%未満のリードを削除 インストールされているfastq_quality_filterの使い方を確認します。

```
$ fastq_quality_filter -h
```



Reseq解析: クオリティコントロール

データ取得 → クオリティコントロール → マッピング→変異検出

・ クオリティ30以上の塩基が90%未満のリードを削除

\$ fastq_quality_filter -i 1K_ERR038793_1.fastq -o
reseq/1K_ERR038793_1_qual.fastq -q 30 -p 90 -Q 33 -v

Quality cut-off: 30

Minimum percentage: 90

Input: 1000 reads.
Output: 802 reads.

discarded 198 (19%) low-quality reads.

ターミナルに直接解析のサマリー を出力するソフトもあります。

以降の解析は、片側のリードのみ使用します。

応用)クオリティコントロールの順番も大切

FASTQ形式にマッチするかチェック

データクオリティチェック(FastQC)

Illumina CASAVA filter [Y] を除去

クオリティ20未満が80%以上のリードを除去

クオリティ20未満の末端をトリム

未知の塩基(N)が多いリード除去

配列長が短いリード除去

片側のみのリードを除外

データクオリティチェック(FastQC)

ロングリードの場合、 リードの大半が除外されて しまう可能性。

ペアエンドリードの場合、 ペアが揃っていないと マッピングソフトが停止す る可能性。



データ取得 → クオリティコントロール -<mark>→</mark> マッピング─ 変異検出

• Bwa memコマンドの使い方を確認

```
$ bwa-0.7.10/bwa mem
```

Usage: bwa mem [options] <idxbase> <in1.fq> [in2.fq]

-R STR read group header line such as '@RG\tID:foo\tSM:bar' [null]

※RG (read groups)
platform (PL) および sample (SM)が必要
PLの例: 454, LS454, Illumina, Solid, ABI_Solid



データ取得 → クオリティコントロール -<mark>→</mark> マッピング─ 変異検出

・マッピング

```
$ cd reseq
$ ../bwa-0.7.10/bwa mem -R
"@RG\tID:1K_ERR038793_1\tSM:ERR038793\tPL:Illumina"
/home/admin1409/genome/Saccharomyces_cerevisiae/NCBI
/build3.1/Sequence/BWAIndex/version0.7.10/genome.fa
1K_ERR038793_1_qual.fastq > 1K_ERR038793_1_qual.sam
$ 11
```

1K_ERR038793_1_qual.sam



データ取得 → クオリティコントロール -<mark>→</mark> マッピング- 変異検出

SAMをBAMに変換

```
$ samtools view -Sb 1K_ERR038793_1_qual.sam
> 1K_ERR038793_1_qual.bam
$ 11 -h
```

```
56K Jul 24 20:46 1K_ERR038793_1_qual.bam < 248K Jul 24 19:12 1K_ERR038793_1_qual.fastq 239K Jul 24 20:43 1K_ERR038793_1_qual.sam
```

1/4程度にファイル サイズが小さくなり ました。



データ取得 → クオリティコントロール - → マッピング - 変異検出

ソートとインデキシング

```
$ samtools sort 1K_ERR038793_1_qual.bam
1K_ERR038793_1_qual_sorted

$ samtools index 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam

$ 11
```

```
1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam.bai
```



Reseq解析:マッピング

データ取得 → クオリティコントロール - → マッピング - 変異検出

マッピングされたリード数

\$ samtools idxstats 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam

I	230218	713	0
ΙΙ	813184	8	0

コンティグ名、コンティグの長さ、マッピングされたリード、 マッピングされなかったリードの順に表示されます。

3列目を足し合わせると、マッピングされたリード数がわかります。

応用)列の合計を計算するコマンド

```
$ samtools idxstats 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam > tmp
$ awk '{a += $3} END {print a}' tmp
```

1行読み込むたびに、3列目を「a」に足す。

803 マッピングされたリード

```
$ awk '{a += $4} END {print a}' tmp
```

0 マッピングされなかったリード

802リードのfastqをマッピングしたはずが、1本増えています。 マルチヒットしたリードがあると考えられます。

応用)マルチヒットしたリードを探索

```
$ samtools view 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam | awk
'{print $1}' | sort | uniq -c
```

- 1 ERR038793.100
- 1 ERR038793.1000
- 1 ERR038793.101

登場した回数、配列ID 1回以上登場した配列を探します。

```
$ samtools view 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam | awk
'{print $1}' | sort | uniq -c | awk '$1>1 {print}'
```

2 ERR038793.217

本当に2回マッピングされているか 確認します。

応用)マルチヒットしたリードを探索

\$ samtools view 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam | grep
ERR038793.217

```
      ERR038793.217
      2048
      II
      8052
      0
      70H30M
      *
      0
      0

      @GFFF7F@EE@BGE;F;
      NM:i:0
      MD:Z:30
      AS:i:30
      XS:i:30
      RG:Z:1K_ERR038793_1

      ERR038793.217
      16
      XV
      1082774
      0
      47S53M
      *
      0
      0
```

異なるコンティグにマッピングされています。



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング<mark>→</mark>変異検出

GATK UnifiedGenotyperコマンドの使い方を確認

\$ java -jar /usr/local/src/GenomeAnalysisTK-1.6-13g91f02df/GenomeAnalysisTK.jar -T UnifiedGenotyper -h

-R, --reference_sequence <reference_sequence>

-glm,--genotype_likelihoods_model <genotype_likelihoods_model>

SNP, INDEL, BOTH から選べます。デフォルトはSNP



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング</mark>→変異検出

• SNV/Indel検出

```
$ java -jar /usr/local/src/GenomeAnalysisTK-1.6-13-
g91f02df/GenomeAnalysisTK.jar -T UnifiedGenotyper -
glm BOTH -R
/home/admin1409/genome/Saccharomyces_cerevisiae/NCBI
/build3.1/Sequence/BWAIndex/version0.7.10/genome.fa
-I 1K_ERR038793_1_qual_sorted.bam -o
1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf
$ 11
```

```
1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf
1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf.idx
```



データ取得 → クオリティコントロール → マッピング<mark>→</mark>変異検出

• 検出したSNV/Indelの数を確認

```
$ less 1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf
$ awk '!/^#/' 1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf | wc -1
```

100

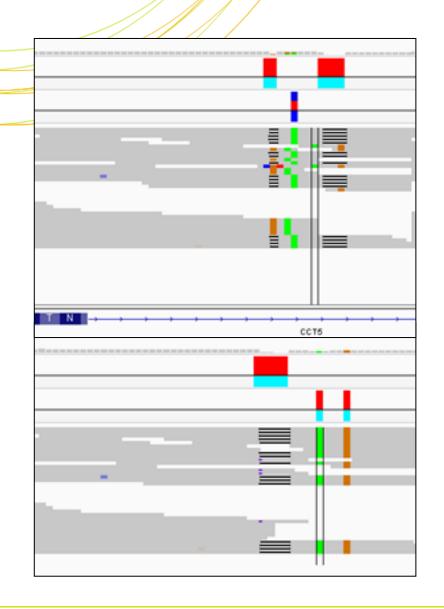
100個の変異が検出されました

応用)リアライメント

リアライメントは必要?

BWAでは、1本のリードに複数の変異が含まれる場合に、アライメントスコアの計算上、SNVやIndelの正確な位置を決めることが出来ません。

このような領域を対象領域と して抜き出して、改めて丁寧 にアライメントを行う。





データ取得 → クオリティコントロール → マッピング<mark>→</mark>変異検出

• 検出したSNV/Indelを可視化

#CHROM	POS	ID	REF	ALT	QUAL	FILTER
I	111		C	T	114.96	

ERR038793 GT:AD:DP:GQ:PL 0/1:2,4:6:64.40:145,0,64

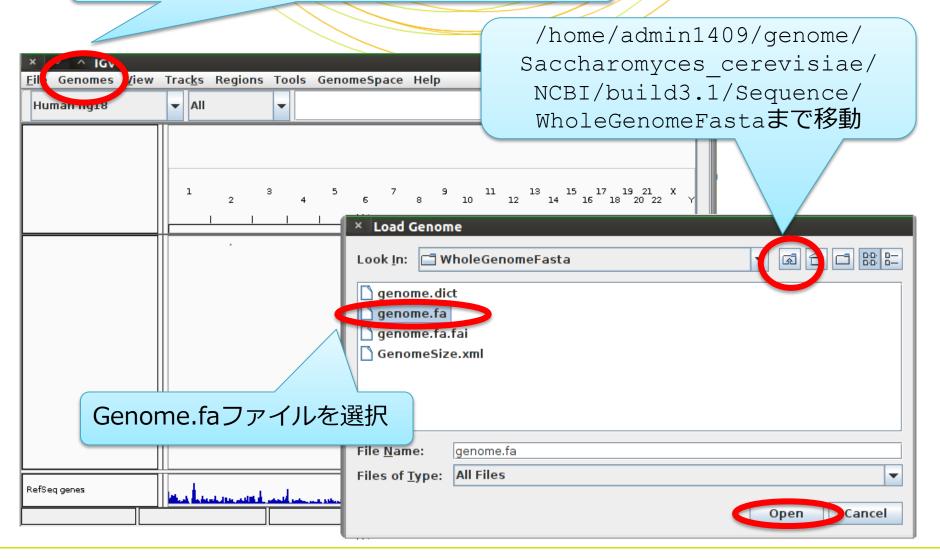
ジェノタイプがC/Tのヘテロ

カバレージが6

\$ igv.sh

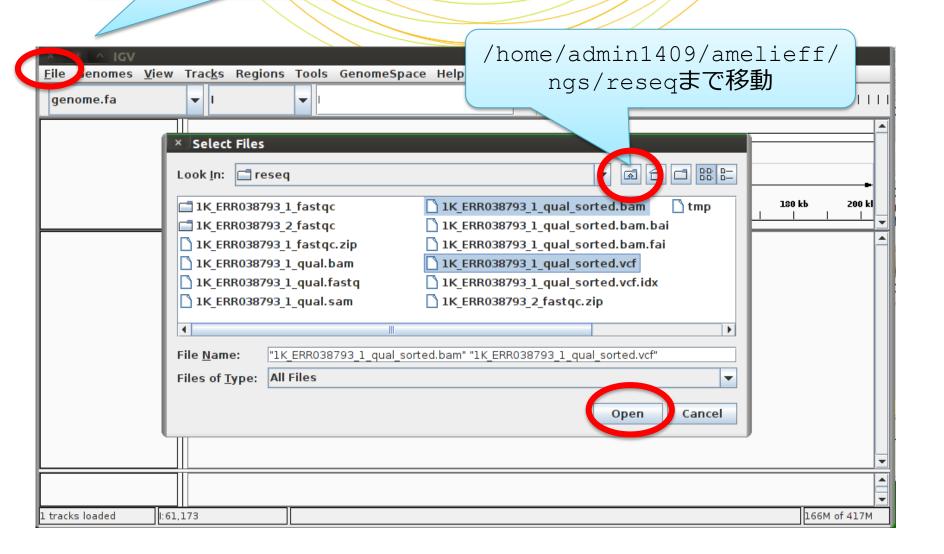


Genomes → Load Genome from File…



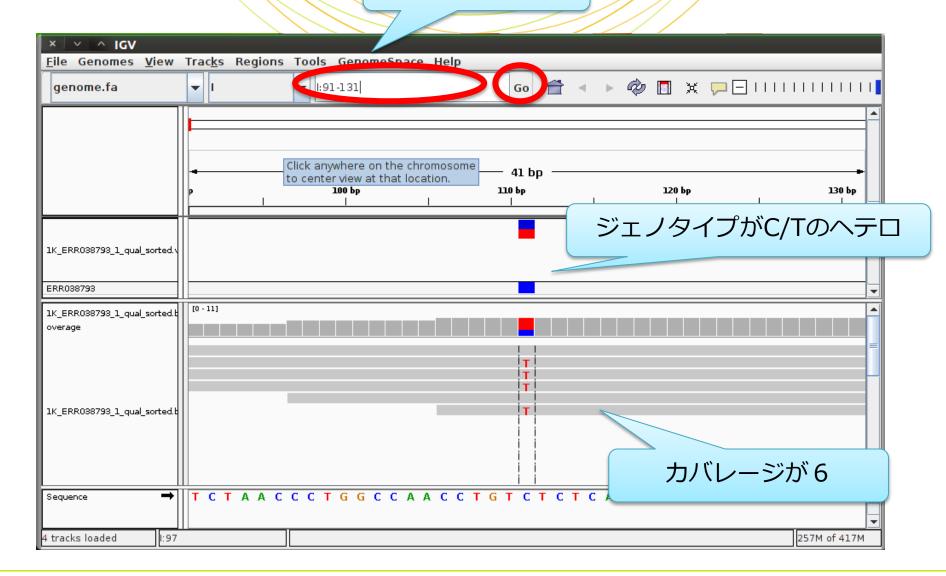






「I:111」と入力





応用)Indelの見方

ATATTAAATACATTTTGCATTTT

TTの欠失 TTTの欠失 AT,A ATTT 525.47 5068 GT:AD:DP:GQ:PL 1/2:1,0,7:16:99:604,205,160,221,0,179 ジェノタイプは、AT/A ホモポリマーではシーケンスエラーによっ て、偽陽性のIndelが検出されやすい。

応用)変異のフィルタリング

• GATKのVariantFiltrationコマンドでフィルタリングをします

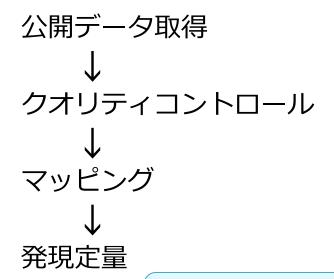
```
$ java -jar /usr/local/src/GenomeAnalysisTK-1.6-13-
g91f02df/GenomeAnalysisTK.jar -T VariantFiltration -R
/home/admin1409/genome/Saccharomyces_cerevisiae/NCBI/bui
ld3.1/Sequence/BWAIndex/version0.7.10/genome.fa
-V 1K_ERR038793_1_qual_sorted.vcf
-o 1K_ERR038793_1_qual_sorted_fil.vcf
--clusterWindowSize 10
--filterExpression "DP < 10" --filterName "LowCoverage"</pre>
```

VCFファイルのFILTER列に、条件を通過した場合"PASS"、そうでない場合は "filterName"が記入されます。

本講義の内容

Reseq解析

• RNA-seq解析



FPKMを算出します。